



えんだより



2021年12月
吉野幼稚園

主 題：「喜び合う」

聖書のことば：「神はその独り子をお与えになったほどに世を愛された」(ヨハネ3:16)

早いもので、今年も12月を迎えました。コロナコロナに、振り回された感のある1年でしたが、今年も残り1か月を切りました。保護者の皆様には、何かとお忙しいことと思います。

幼稚園では、子供たちは12月18日(土)のクリスマス発表会に向けて、毎日練習に励んでいます。Aクラスは「聖劇」をします。「聖劇」とは、イエス・キリストの降誕の様子を劇にしたもので、カトリックの幼稚園ではクリスマス恒例の行事となっています。Bクラス、C・Dクラスも、それぞれの発達段階に応じた劇などを練習しています。子供たちが演じる発表会、とても楽しみです。ぜひ、保護者の皆様にご来園いただき、ご参観いただきますようお願いいたします。

さて、今回は「**自発性を大切にしよう**」というおはなしです。子どもの興味・関心・自発性を無視した教育は逆効果になることが多いといえます。子どもの興味・関心・自発性こそ生き生きとした活動の源(みなもと)です。

子どもが自発性をもって活動する興味いっぱいの環境は決して高価なものがたくさんある環境ということではありません。素朴なものでも子どもは、その子なりの興味を持ち、自分の五感・手足を使っていろいろな活動をします。土や砂さえも子どもには創作活動の材料です。想像力を膨らませ、頭の中に湧き出るイメージをもとに砂場で山やトンネル、ダムなどをあきずに作って遊びます。この自発性こそが子どものいろいろな能力を発達させていく大切なエンジンです。この生命力による自発性=興味が源泉に、個性的な発達を目指して開発されたのが、モンテッソーリ教具です。この教具を環境の中にたくさん用意して、子どもが興味を持って活動できるように準備しているわけです。

コロナ禍の下での行事の見直しや縮小など、いろいろな影響があった2学期でしたが、運動会、芋ほり、焼き芋体験、園外保育などの行事がありました。一つ一つの行事が、子供たちにとって幼い頃の楽しい思い出として残ってくれることでしょう。

今年も残り少なくなってまいりましたが、幼稚園の日常の保育活動や行事等への多大なご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございました。今後ともよろしくようお願いいたします。

園の教育と、家庭での教育が一体となって、すばらしい御子を育ててまいりましょう。

【園長 野田弘之】

12月のねらい

- Aグループ・聖劇を通して、クリスマスの意味を知り、皆で劇を作り上げる達成感を味わいながら、心を込めて発表する
- Bグループ・クリスマスの行事を通して、劇遊びを自分なりに表現することを楽しむ
- CDグループ・クリスマス行事を楽しみ、興味や関心を持つ